

## 天声人語

アカデミー賞にさきがけ、毎年ひどい映画や俳優などを選ぶのがラジ一賞である。1990年にはエディ・マーフィー氏が最低脚本賞に輝き、最低監督賞の候補にもなった。主演から監督、脚本まで担つた作品が酷評された。俳優としての自信のあまり、欲張りすぎたか▼今年はトランプ米大統領が最低男優賞に選ばれた。マイケル・ムーア監督の「華氏119」に映像が使われ、こんな男が大統領でいいのかとこきおろされた▼トランプ氏にとって、勝手に主役扱いされた作品は不本意であろう。一方、北朝鮮との外交では、主演、監督、脚本さらにはプロデュースまで担う勢いだつた。外交の専門家である国務省を外し、中央情報局（CIA）を起用する奇手も使つた▼2回目の米朝首脳会談の直前、大統領は「とてもなく素晴らしい会談になる」と予言していた。結果は合意文書すらまとめられない失態である。望んだ脚本通りに、金正恩朝鮮労働党委員長が動いてくれなかつたようだ▼1回目の首脳会談で非核化を約束した時には期待したくもなつた。しかしその後、地道に行程を詰める作業が進まなかつた。トップによる取引を重視し、実務者を軽視するトランプ流の弊害であろう▼外交論の古典、ニコルソン著『外交』に悪い交渉者の例が出てくる。「素人外交官は、虚栄心から、そしてその在職期間の短さのため、とかく功を焦りやすい……衝動に襲われることが多い」。トランプ外交を予言するかのような警句である。

2019・3・1